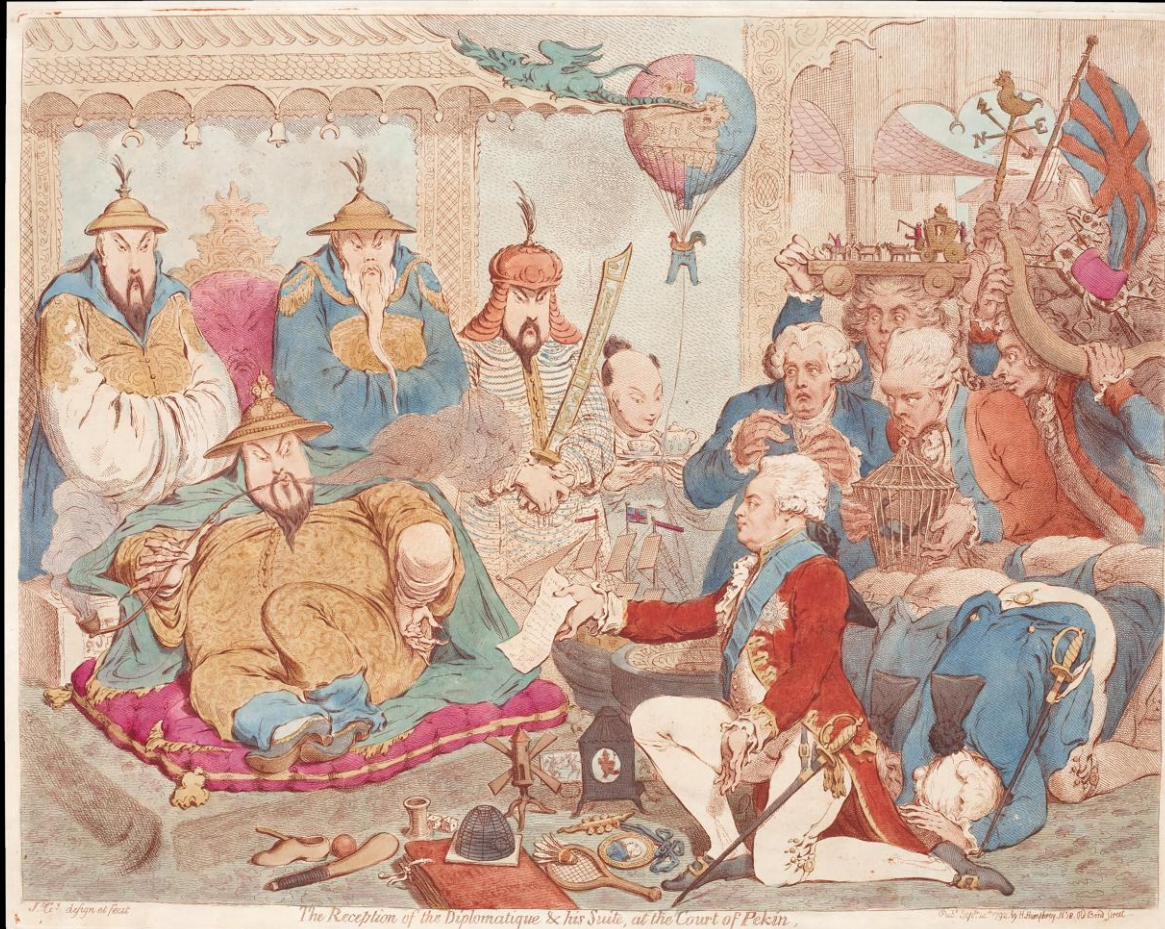


けんりゅうてい
マカートニーを謁見する乾隆帝
ジェームズ=ギルレイ 1792年

話は聞いてあげよう、
でも聞くだけだよ



18世紀後半、イギリスは中国と対等な関係で貿易ができるように条約を結ぶべく、中国へ使節を派遣します。使節団の全権大使に選ばれたのは上院議員のジョージ=マカートニー伯爵でした。乾隆帝は、熱河の離宮にてマカートニーに謁見を許可しますが、制限貿易撤廃など、イギリス側の要望はすべて拒否しました。イギリスの風刺画家が描いた本図では、威厳よりも横柄さを感じさせる乾隆帝と紳士的なマカートニーの描写が対象的です。

*Macartney Meeting Emperor Qianlong,
James Gillray, 1792*

In the late 18th century, the Great Britain dispatched an envoy to China to conclude a treaty for trade with China under an equal relationship. George Macartney, a senator, was selected as an ambassador plenipotentiary of the envoy. The Qianlong Emperor admitted Macartney to have an audience in a detached palace, but he rejected all the demands from the Great Britain, including the abolition of the restrictions on trade. This picture, drawn by a British caricaturist, depicted the Qianlong Emperor as an arrogant emperor and Macartney as a gentleman..



マカートニーと乾隆帝 ジェームズ・ギルレイ画 1792年

新しい時代の足音...



～国を背負う男と男のかけ引き～

乾隆帝



まず挨拶として、3回ひざまずいて9回頭を床にこすりつけるのだ。

マカートニー



(それでは清朝の臣下になることを意味してしまう... 対等な自由貿易がしたい!) いえ、イギリス流の片膝ポーズでやらせてください

乾隆帝



ふん、まあよかろう。しかし君の要求はのまんぞ。

★17世紀以降、イギリスは世界に先がけて科学技術を発展させ、市場を拡大していきます(産業革命)。清朝へも使節団を派遣して貿易条件の改善を求めましたが、要求は通りませんでした。

★清朝は、他国を皇帝の臣下と捉え、貢ぎ物が送られればそれに対して返礼をするという伝統的な考え(冊封朝貢体制)を受け継いでいました。新たにやって来たイギリスに関しても、対等な関係を築こうとは考えていなかったのです。

この絵はイギリス人画家が想像で描いています。清朝とイギリス側の人物の描かれ方に、どんな違いがあるのでしょうか?考えてみましょう。

Handwritten response area with a green dotted border.